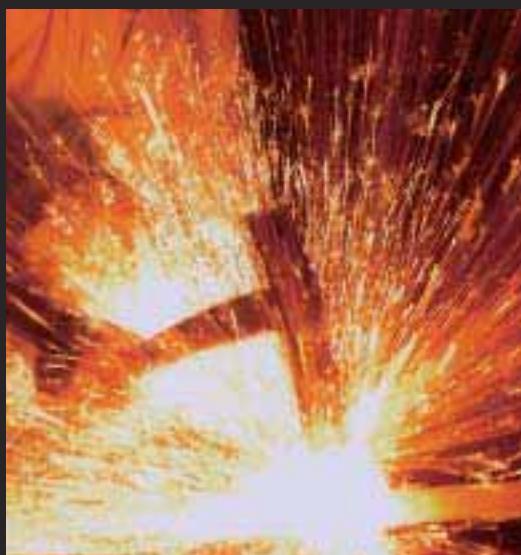


あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.153 2007.11.1



平成
19年 10月28日(日) ▶ 12月1日(土)

松本市立博物館 2階展示室

関連事業

【職方実演】11月3日(土)、4日(日) 鍛冶師の公開鍛錬と銘切実演、研師、鞘師の実演
【講演会】11月23日(金) 午後2時～3時30分
【会場】松本市立博物館2階講堂【演題】「雑学・日本刀」【講師】宮入法廣氏



もくじ

- 誌上博物館◇詩歌人たちの青春のうた 2 - 3
ガイドコーナーはんてんぼく 4



詩歌人たちの青春のうた

平成19年は松本市市制施行100周年の記念すべき年であるとともに、窪田空穂が生誕して130年の節目の年でもあります。これを記念し窪田空穂記念館では特別展「青春のうたーあの時わたしは若かったー」を11月25日まで開催中です。

空穂の代表作として知られる「鉦鳴らし信濃の国を行きゆかばありしながらの母見るらむか」は、空穂が20歳のときに亡くなった母を思う短歌で23歳のときの作、処女詩歌集『まひる野』に掲載されています。この詩歌集は後の空穂歌風とは違い、浪漫的な様相が濃く青春期特有の感情が表れています。空穂と同世代の詩歌人を見渡した時、現在も多くの人々に愛誦されている歌が、この青春期に詠まれたことに気付かれました。

本稿では、特別展の第一部でとりあげた空穂をはじめとした11人の近代詩歌人たちのプロフィールと「うた」を紹介します。

窪田空穂は明治10年（1877）に和田村（現・松本市和田）に生まれ、昭和42年（1967）東京で没しました。国文学者でもあった空穂ですが、「私は歌人である。」として博士論文の提出を拒む一面もありました。

歌人・窪田空穂の出発点は、太田水穂との交わりのなかで短歌を作り始めたことですが、与謝野鉄幹の眼力も見逃せません。空穂が世にでるきっかけは、鉄幹の推奨があったからです。当時の文学界は、浪漫主義や自然主義が起つてきました頃で、空穂だけでなく多くの人々が影響をうけました。

思ひ出の涙今宵はうれしきに音を潜めよ市渡る風
空穂が26歳のときに詠んだ「うた」です。

人々に影響を与えた一人に島崎藤村がいます。彼は気持ちを口語体で表現し、その若々しく、みずみずしい詩は、発表されると若者たちの圧倒的な支持をうけました。空穂も藤村の『若菜集』に心を奪われた一人です。「初恋」や「千曲川旅情のうた」など青春を歌ったものには、甘酸っぱい思いとアンニュイな想いが表され、後年の自然主義小説とは一線を画しています。

**昨日またかくてありけり 今日もまたかくてありなむ
この命なにを齶齶 明日をのみ思ひわづらふ…**
藤村が39歳になる前に詠んだ「うた」です。

『蒲団』を始めとして自然主義小説家として名高い田山花袋も短歌をこしています。『花袋歌集』の序では「歌は日記のようなもの」と記しています。「とほやまのさくら」と題された一首は、紅葉の絵柄の短冊に書かれていて



窪田 空穂



島崎 藤村



田山 花袋

不思議な作品です。録弥と本名が記されていて、これを詠んだ24歳ころに書かれたものと思われます。

**惜しみつつ別れきにける遠山の桜は雲となりにけるかな
花袋が22歳のときに詠んだ「うた」です。**

空穂とは花袋が雑誌『文章世界』の主筆となったころからの交わりで、仲間として一緒に旅行などもしています。



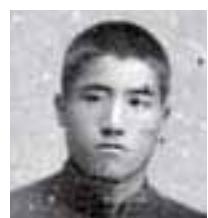
佐佐木 信綱

唱歌「夏は来ぬ」などの作詞者として知られる佐佐木信綱は、江戸時代から続く国文学・歌人の家に生まれました。第一歌集『思草』は中国文人への土産に制作されましたが、「願はくは」など浪漫主義的な作品が多く掲載されています。

**願はくはわれ春風に身をなして
憂ある人の門をとはばや**

信綱が30歳になる前に詠んだ「うた」です。

空穂は短歌に心をひかれたころから信綱の歌の本に教えを受けたと記し、終生学恩の師として尊敬しています。

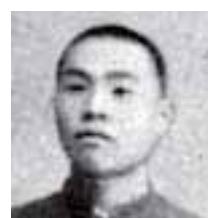


太田 水穂

太田水穂は明治9年に原新田村（現・塩尻市広丘）に生まれ、空穂より1歳年長です。後に独自の象徴主義を確立する水穂は、その片鱗を早くからみせ、当時浪漫主義的な歌を作っていた空穂の短歌を認めなかったとも言われています。「秀つ峰を」の短歌は若き水穂の歌に懸ける決心を表しているようです。

**秀つ峰を西に見さけてみすず刈る信濃の道に吾ひとり立つ
水穂が26歳になる前に詠んだ「うた」です。**

この歌が掲載されている水穂の処女歌集『つゆ草』の刊行には、空穂も資金集めを手伝うなどしています。



島木 赤彦

島木赤彦は明治9年に上諏訪村（現・諏訪市）に生まれました。写生の立場を強く押し出し「アララギ」発展の基礎を築いた赤彦ですが、思うような人生を送られたわけではありませんでした。進学は家庭の事情から、費用のかからない師範学校へとならざるをえず、卒業後は養子先との関係から教師として就職する他はなく、自分の中にある大望を表に出せず鬱々とした日々の中にいたことが、明治32年の卒業写真の裏に書いた一文からわかります。この文の前に次の俳句が記されています。

**この顔を写真とるなる寒さかな
赤彦が23歳のときに詠んだ句です。**

空穂と赤彦は水穂を通して青年のころ知り合い、空穂が早稲田への再入学のために上京する折には赤彦も見送りに来ています。

与謝野鉄幹・晶子は近代詩歌の浪漫主義を確立させた二人です。短歌革新に燃えて上京した鉄幹は、虎の鉄幹といわれ強い言葉で自身を、また愛を歌い、その影響を受け女性の感情を堂々と歌った晶子は、明治という時代に一大センセーションを巻き起こしました。「やは肌の」の歌は晶子の代表歌ともなりました。晶子はこの後も女性の代表として一線で活躍します。

**やは肌の熱き血汐に触れもみでさびしからずや道を説く君
昌子が22歳のときに詠んだ「うた」です。**

「文壇照魔鏡」事件（※）で失墜した鉄幹は、その後発表の場を失ってゆきました。明治末に妻晶子の協力で欧州に留学しますが、帰国後も発表の場はなく後進の指導にあたりました。「みづからの」の歌は帰国後まだ自分の力を信じ、新しく人生をやり直そうとした40歳ころの鉄幹の心意気があらわされた一首です。

自らの花を惜めるこの蔓は空に咲かんとよちのぼりゆく

空穂は鉄幹に認められ世にでますが、「明星風」の浪漫主義からしだいに遠ざかっていました。しかし後年、自分の歌を認め、世に出し、いつも気にかけてくれたという関係で「鉄幹の外には師承といふべきものはない。」とも記しています。

晶子とも「明星」時代からの交流があり、その第一印象は「東京離れのした、魅惑的な人」と記しています。与謝野晶子についての執筆が多いのはそのせいでしょうか。

早稲田大学の校歌「都の西北」や童謡「春よ来い」の作詞者である相馬御風は、中学時代から本格的に短歌を作り始めます。「桜」と題されたこの歌は、地元糸魚川の一の宮に奉納される舞を見て詠まれたと言われ、御風と号し始めたころの作品とされています。

**舞姫の打ちひるがへす袖の上に
蝶かあらぬか桜花散る
御風が18歳のときに詠んだ「うた」です。**

御風は、雑誌『早稲田文学』の編集をしていたことから同大学出身者の空穂とも親しく、空穂が糸魚川へ御風を訪ねていったこともあります。

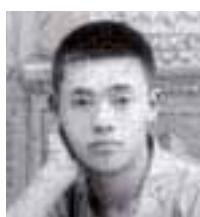
若山牧水も中学時代に短歌を作りはじめますが、第一歌集『海の聲』には今でも愛誦される「幾山川」や「白鳥は」が掲載されています。この当時牧水は困難な恋愛をしていて、その気持ちが素直に詠まれています。また旅と酒を愛した牧水がこした酒の歌のなかでは、しみ



与謝野 晶子



与謝野 鉄幹



相馬 御風



若山 牧水

じみとした孤独感が郷愁を誘うのでしょうか「しらたま」の歌に人気があります。

**白鳥は哀しからずや空の青海のあをにも染まずただようふ
牧水が23歳ころに詠んだ「うた」です。**

年下ではあっても芸術家として牧水に好意をもっていた空穂ですが、「親しい交わりもないうちに亡くなってしまったことが残念だ」「数回しか逢ったことがないのにその時の印象の忘れられない人であった」と記しています。

空穂とは交流はありませんが、詩集『月に吠える』で一躍文壇に躍り出た萩原朔太郎も若い頃は短歌を作っていました。与謝野晶子の『みだれ髪』に触発されて、多くの短歌を作りましたが、その歌は後年の詩を思わせるものがあります。朔太郎は高校受験に失敗したり、せっかく入った大学も中退したりしてついに卒業しませんでした。そんな挫折感が歌のなかに見え隠れします。

**楽隊のシンバルのする音にききぬそのとき君に聞きし一言
朔太郎が23歳のときに詠んだ「うた」です。**



萩原 朔太郎

みなさん、いかがでしたでしょうか。藤村、信綱、鉄幹の3人を除くと、10代後半から20代中ごろ、のちに名をなした詩歌人たちが、まさに若かりし頃に詠んだことがわかりますね。特別展の第二部では現代歌人37名に青春時代の自作を揮毫していただき、当時の写真もお借りし展示しました。今も昔も変わらぬ青春時代の想い、時代とともに変わった思いなどを、自筆の歌と若かりし頃の写真で感じていただきたいと思います。

なお、本稿で紹介した「うた」や句は、読みやすいように一部を漢字表記に改めてあります。

(窪田空穂記念館 学芸員 田川 恵美子)

(※)文壇照魔鏡事件とは、1901年3月に出された怪文書「文壇照魔鏡」に始まった、鉄幹が誹謗中傷された事件をさす。内容は俗悪で品性を欠いたが、これが多くの人々に実際の鉄幹像として受け取られてしまった。文壇はもとより鉄幹が受けた衝撃も大きく、心情的なものに加えて「明星」の読者や会員が激減する事態を引き起こした。

松本市立博物館から

☎0263-32-0133

松本市市制施行100周年記念事業**岳都松本 小谷コレクション展～信州大学の名品～**

信州大学との共催で、同大学附属図書館に寄贈された山岳関係図書「小谷コレクション」を紹介します。

期間 12月9日(日)まで

会場 地下展示室

観覧料 常設展料金(一般200円・小中学生100円)

◆フロアレクチャー

日 時 11月10日(土) 午後1時30分
内 容 「多湖文庫と信州大学」

日 時 11月23日(金) 午後1時30分
内 容 「山岳科学研究所の活動」

◆記念講演会「小谷隆一さんの山と北杜夫さんの自然」

日 時 11月11日(日) 午後1時30分～3時30分

会場 2階講堂

講 師 日本山岳会京都支部長 塚本 瑛一さん

松本まるごと博物館友の会企画展「武士の心」

松本まるごと博物館友の会との共催で企画展「武士の心」を開催します。今回の企画展は、「松本の郷土刀研究部会」の企画によるもので、江戸時代の松本の刀剣の歴史を振りかえります。

期間 12月1日(土)まで

会場 2階展示室

観覧料 常設展料金(一般200円・小中学生100円)

◆職方実演

期 日 11月3日(土)・4日(日)
内 容 鍛冶師の公開鍛錬と銘切実演、研師、鞘師の実演

◆記念講演会「雑学・日本刀」

日 時 11月23日(金) 午後2時～3時30分

会場 2階講堂

講 師 宮入 法廣さん

バス見学会「善光寺街道の宿場町を訪ねて」

期 日 12月20日(木)

参加料 200円(保険代及び資料代)

旧制高等学校記念館から

☎0263-35-6226

企画展「旧制高校生の読書～背丈ほどの本を読め～」

期 間 11月3日(土)～12月16日(日)

会 場 旧制高等学校記念館1階 ギャラリー

観覧料 無料(常設展は有料)

あとがき

今年7月、時計博物館に岡谷市の方から古時計4点が寄贈されました。この中に、100年ほど前に作られた明治時代の八角掛時計がありました。この時計は、明治42年に始まった諏訪湖一周スケート大会の第4回大会の入賞賞品とのこと。さすが近代スケート発祥の大会。高価な掛時計が副賞だったとは!来年度の「時の記念日展」で公開する予定です。

(Y.T.)

考古博物館から

☎0263-86-4710

企画展「わが町文化財展」

期 間 10月13日(土)～12月2日(日)

観覧料 200円(常設展示を含む)、中学生以下無料

会 場 考古学博物館 第2展示室

時計博物館から

☎0263-36-0969

体験講座「機械時計をつくろう!」

日 時 11月17日(土) 午後1時30分～3時

対 象 小学校高学年の親子または中学生

受講料 1,000円(材料費)

定 員 10名(要申込)

歴史の里から

☎0263-47-4515

裂き織り体験

日 時 ①11月24日(土) 午前10時～正午、午後1時～3時

受講料 1,000円(小サイズ500円)

定 員 午前・午後とも15人

申 込 3日前までに申込が必要です。

糸ひき実演

旧昭和興業製糸場では、毎月第2・4土曜に糸ひき実演をしています。
実演で生産した生糸はミュージアムショップで販売中です。

日 時 11月11日(土) 午後2時～3時ころ

受講料 無料(入館料別大人400円、中学生以下無料)

申 込 不要

※講師都合等で中止する場合があります。

梓川アカデミア館から

☎0263-78-5000

いずれも午前10時から午後5時まで入場無料

中沢写真学校同窓会展

期 間 11月6日(火)～11月11日(日)

松本フォトアカデミー写真展“麗しの大地XI”

期 間 11月14日(水)～11月19日(月)

第51回 ひまわりフォトクラブ写真展

期 間 11月21日(水)～11月26日(月)

第30回 日本山岳写真協会松本支部展

期 間 11月28日(水)～12月3日(月)

安曇資料館から

☎0263-94-2134

平成19年11月16日(金)から平成20年4月26日(土)まで冬期休館となります。

あなたと博物館 No.153

発行年月日／平成19年11月1日

編集・発行／松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133

URL:<http://www.city.matsumoto.nagano.jp>e-mail : mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp

印刷 川越印刷株式会社